



私が、誰かを支える
大人に

小園井 ゆず さん（長島町）

今までに、数え切れないほどの思い出があります。あのときのことがあったから今の私がある。たくさんの方に支えられて、生きてきたことに気付きました。20年間はあっという間でした。時間はどんどん過ぎていきます。決して戻ることにはできません。後悔しないよう、今を楽しんで精一杯生きます。今度は、私が誰かを支えられる大人になりたい。決して、一人ではないことを心に留め、周りの人々に感謝し、夢に向い進みたい。



学んだことを伝える
大人に

近藤 佑亮 さん（大井町）

成人式は、今までの人生を振り返ったり、これからの自分を見つめ直したりする、良い機会です。20年間を振り返ると、人として大切にしなければならぬことをたくさん学んできました。これから社会に出て、学ぶことはたくさんあると思います。子どものころから学んできたことを大切に、伝えられる大人になりたい。成人になるまで、健康を気遣い、温かく見守り育ててくれた両親に、感謝の気持ちを伝えたい。ありがとうございました。



▲初の統一会場になった恵那文化センターで友人らと記念撮影を楽しむ新成人

一堂に会した成人式

恵那文化センターで、1月9日、平成23年市成人式が行われました。男性292人と女性296人、合計588人の新成人のうち515人が出席。新成人は合併後、同じ市内の中学生として、さまざまな機会に

交流した最初の世代（平成17年度に中学校を卒業した生徒）。ことし成人を迎え、一堂に会して新たな門出を祝いました。

□問い合わせ 社会教育課 ☎ 43-2112（内線341）

二十歳の決意

感謝と責任をかみしめた

▼まだまだと思っていた成人式を迎え、とても時間の流れを早く感じた。一番に思うことは家族や友達への感謝の気持ち。今は大学生で、まだ将来について明確に決めていない。これを節目に、将来について真剣に向き合う。

▼ことしから社会人として働く。新しい環境や出会いがあると思う。職場への不安もあるが、働く中で自分の考えや行動をしっかりとしたものにしたい。将来、何がしたいのか、そのためには何をしないといけないのか考えて今まで応援してくれた方々に感謝し頑張る。

▼私が20年間で、家族や友人、恩師、地域の方々から学んできたことを大切に、次の世代の子どもたちにも、そのことを伝えていく。

▼成人として恥ずかしくない、責任のある行動を心掛ける。

▼成人式を迎え、改めて大人への一歩を踏み出したのだと感じた。新たなスタートとして出発する前に、これまで育ててくれた家族や支えてくれた友人、正しい道を示してくれた先生に感謝したい。



▲ことしの成人式を企画、運営した17人の実行委員。統一開催に向け10月から準備を行って来た

▼成人式という大きな節目まで来れたのは、自分の力だけでなく恩師や家族、友人、地域の方々などの支えがあったから。ことしから社会人としての責任を持ち、感謝したい。

自から選んだ本を贈呈

市では、読書に親しみ、学びを広げ、学んだことを地域社会に生かす「市民三学運動」を進めています。学びの原点である読書を進めるため、絵本の朗読や、新成人が自から選んだ1冊の本を、記念品として贈呈しました。

用意したのは、俳優の児玉市では、読書に親しみ、学びを広げ、学んだことを地域社会に生かす「市民三学運動」を進めています。学びの原点である読書を進めるため、絵本の朗読や、新成人が自から選んだ1冊の本を、記念品として贈呈しました。

清さんなど6人の著名人が推薦する20冊と、市が推薦する1冊の本です。

式典では、ダイナミックな画像をバックに、絵本と詩を朗読した女優の相田翔子さん。「壁にぶつかったときに、乗り越える力を付けてください。いろいろなことに挑戦してほしい」と、新成人へエールを送りました。



▲「二十歳の20冊+1冊」として、自身が選んだ本を、受付時に新成人へ贈呈

▶相田翔子さんが「ヤクーバとライオン」勇気」「II 信頼」（講談社出版、ティエリー・デュー作、柳田邦男訳）と詩集「世界は一冊の本」（みすず書房出版、長田弘作）の一遍の朗読を披露

